

発達障害者が自ら語る、社会での困難や希望



中邑教授(写真右)との質疑応答を真剣に聞く参加者たち

就職に悩む若者の支援をする、いばらき若者サポートステーションが創立1周年を迎え、「発達障害を社会で支えるフォーラム」が水戸市桜川の県産業会館で開かれた。

東京大学先端科学技術研究センターバリアフリー分野特任教授・中邑賢龍さんが「短時間労働というワークスタイル」をテーマに講演。「社会になじめなかった子供たちが語る経験と今」では、発達障

害を持つ人々の雇用を進めているアルルホームズ 明るい株式会社(代表・安倍鴻祥さん)の社員が実体験を報告。「認めてくれる人や環境があれば少しずつでも変われる」「何歳からでもスタート出来る」との言葉に参加者たちは聞き入っていた。笠間市の大山智さんは「色々な話を聞けて、自分の視野が広がった気がしました」と話した。9月に「障害者雇用における企業の取り組みについて」をテーマに第2回フォーラムを予定。☎029(259)6860 同サポートステーション <http://saposute.jp/>